

釣り餌として利用されているエビ類について

玉城英信・勝俣亜生・新里享*

1. 目的および内容

近年、釣り人口の増加に伴い釣り餌用の生きエビの需要が増えていると思われるが、その実態についての資料はほとんどない。そこで、県内の釣具店を対象に生きエビの需要、販売量等について、アンケート調査を行ったので報告する。また、実際に採集調査を行ない、1日の採集量、種類などを調べたので併せて報告する。なお、釣り用生きエビとして使われている生きエビの大部分はフトミゾエビ(*Penaeus latisulcatus*)で、沖縄ではシルセー、シルサイと呼ばれている。

2. 材料と方法

① アンケート調査

沖縄本島にある釣具店107店舗のうち、各市町村から計30店舗を選びアンケート調査を行った。

② 採集調査

沖縄本島南部の糸満から与根にかけての海域で、大潮時の夜の干潮の前後に水深0~50cmの範囲で採集を行なった。ヘッドライトと市販のエビ取り器を用い歩きながら採集した。採集したエビは秤量した後冷凍し、計数、同定した。種の同定に当たっては、水産大学の林健一教授及び琉球大学の諸喜田茂充助教授のご助言を戴いた。厚くお礼申し上げます。

3. 結果と考察

① アンケート調査

表1にアンケート結果を示した。アンケートを依頼した30店舗中14店舗から回答(うち3店舗は取扱っていないとの回答)があった。

商品サイズは2~15cmで2~5cmサイズは磯釣り、6~15cmサイズは沖釣り用として利用されている。生きエビの良く売れる月は11~3月の冬場で7cmサイズ(5g)が良く売れる。

エビの入荷量が少なくなるのも冬場12~3月で、その要因としては強い北風のため海が荒れることが多いことと、遊漁者が漁にでないためと思われる。しかし、冬場のチン・タイ釣り用として、この時期の需要が最も高い。

釣具店の仕入金額は夏場4,500~5,000円/kgで、冬場5,000~7,000円/kgと少し高くなるようであるが、概ね5,000円/kgで安定している。販売金額は7,000~10,000円/kgである。

回答のあった10店舗の年間販売量は合計3,336kgで、7店舗の年間予想需要は合計3,922kgと多く、県内の需用がかなりあると思われる。

また、アンケートの意見の欄に「供給が安定すれば販路は拡張できる」、「釣り人口の増加と

*非常勤職員

共に有望な産業となる」、「クルマエビよりもフトミゾエビの方が魚の食いつきが良い」との回答もあり、釣り餌用のフトミゾエビ及びモエビの養殖が成り立つ可能性はあると思われる。

表1 釣り餌用活きエビアンケート調査結果

良く売れる月	商品サイズ (cm)	良く売れるサイズ(cm)	年間販売量 (kg)	年間予想需要(kg)	仕入金額 円	少なくなる月	回答地区
11- 3	5-10	7	270	350	5,000	12-2	浦添
11- 3	3-10	7	1,000	1,500	5,000	9-4	那覇
-	3-5	4-5	50	60	5,000	12-2	読谷
5-10	2-4	3	-	-	6,000	10-2	宜野湾
12- 4	4-7	4-5	500	500	夏4,500 冬5,500	12-4	北中城
-	4-15	6	12	12	-	-	本部
10-12	4-9	7-8	400	500	夏5,000 冬7,000	12-3	豊見城
11- 4	3-7	3-5	400	1,000	5,000	12-3	糸満
-	-	-	100	-	-	-	那覇
-	-	-	500	-	-	-	南風原
-	-	-	104	-	-	-	具志頭

② 採集調査

採集場所を図1に示した。採集結果は表2、表3及び図2に示した。

表2の採集人のうちAとBはエビ取りを専門にしている人であり、C、D、Eは水試の職員である。専門家の1日の採集量は約1.5-3.0kgで販売額にすれば7,500円から15,000円である。

採集されたエビは6種でフトミゾエビ (*P. latisulcatus*)が最も多かった。モエビ (*Metapenaeus moebi*)は1988年の3月と4月に多いが表2との対比でわかるように水試の職員だけで採集したためエビの見つけ安い浅瀬を歩いた結果、淡水の影響のある場所に多いモエビが採集されたものである。

6種のうち、*P. longistylus*は日本初記

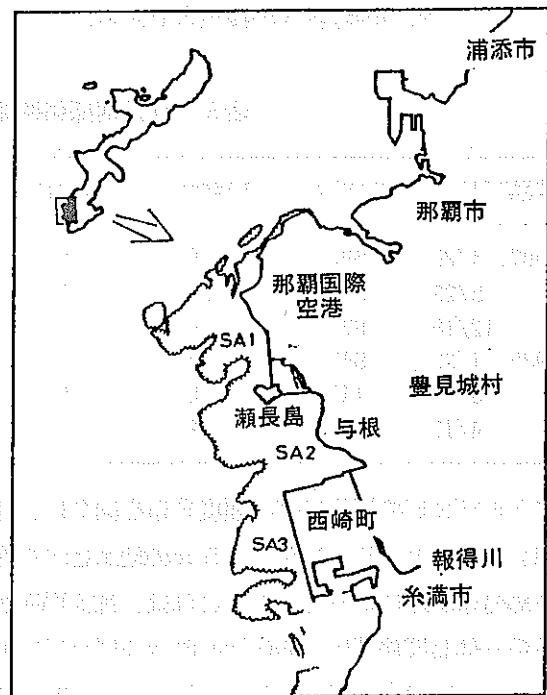


図1 採集場所

録、テラオクルマ(*P. marginatus*)とトサエビ(*Metapenaeus intermedius*)は沖縄初記録である。

最も採集個体の多かった1988年1月22日のAを単位時間当りの採集個体数で見ると 3.9尾/分となり、資源量はかなり多いと考えられる。

表2 採集調査結果

採集月日	採集場所	採集時間	採集人	採集量(g)	尾数	平均重量(g)
1987. 4/26	st.1	3:30	A:B:C	2,800	692	4.0
5/23	st.2	3:30	A:B:C	2,020	736	2.8
12/18	st.3	3:00	A(850)* B(650) C(300)	1,800	687	2.5
1988. 1/22	st.3	3:40	A(3200) B(310)	3,510	963	3.6
3/17	st.3	4:00	C(182) D(216)	398	211	1.9
4/17	st.3	3:30	C(320) D(430) E(270)	1,020	682	1.5

*()内は各人の採集量である。

表3 種類別採集個体数

採集月日	フトミゾエビ	テラオクルマ	ミゾクルマエビ	<i>P. longistilus</i>	モエビ	トサエビ	合計
1987. 4/26	692	0	0	0	0	0	692
5/23	699	34	0	2	0	1	736
12/18	671	0	1	0	15	0	687
1988. 1/22	947	5	1	3	7	0	963
3/17	142	0	0	0	69	0	211
4/17	537	0	1	0	144	0	682

フトミゾエビの採集日毎の頻度分布を図2に、体長-体重曲線を図3に示した。

図2に見るとおり、周年1-5gの幼エビが存在する。1988年3月と4月は水試職員だけで採集したため分布が左に寄っている。これは、採集場所が浅瀬に偏っていたためと思われる。

体重-体長関係式は、 $BW(g) = 0.01 \times BL(cm)^{3.04}$ ($r=0.99, N=733$)であった。雌のみでは、 $BW = 0.01 \times BL^{3.01}$ ($r=0.99, N=353$)、雄は $BW = 0.01 \times BL^{3.05}$ ($r=0.99, N=380$)でほとんど差がなかった。

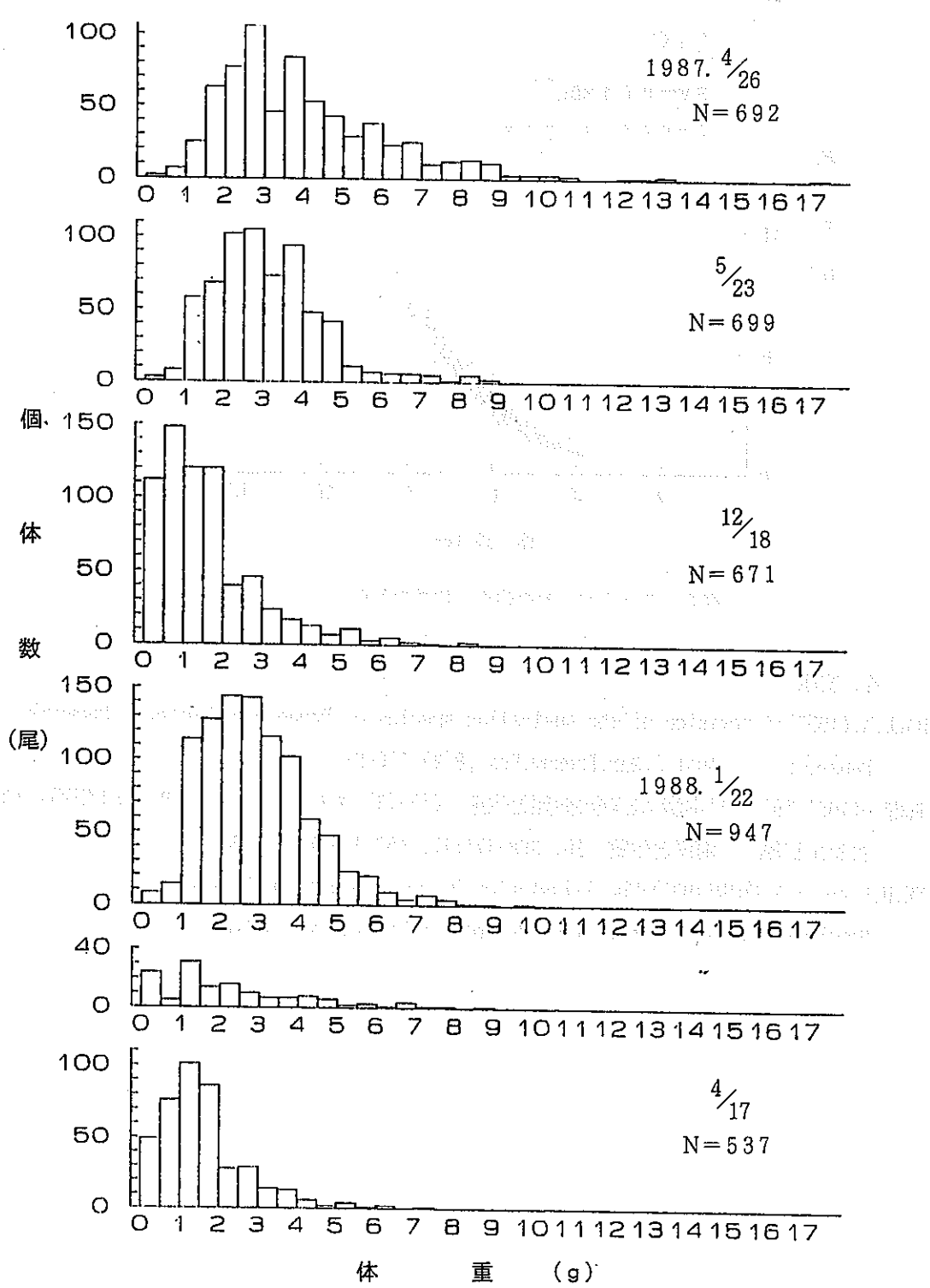


図2 フトミゾエビの採集日別頻度分布

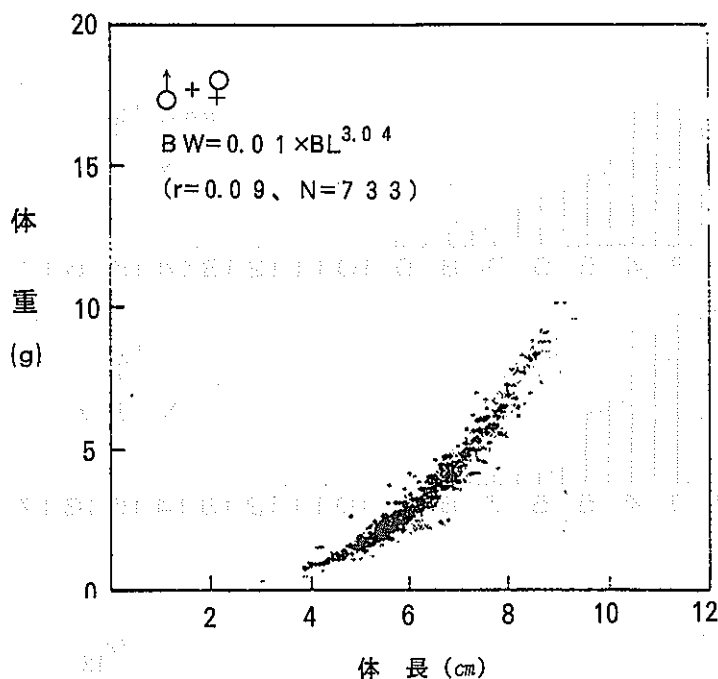


図3 フトミゾエビの体重—体長の関係

4. 文献

- DALL, W. (1957): A revision of the Australian species of Penaeinae (Crustacea Decapoda: Penaeidae). *Aust. J. Mar. Freshw. Res.*, 8(2), 136-231.
- 林健一 (1981-1982): 日本産エビ類の分類と生態 (1)-(3). クルマエビ科—クルマエビ属①、②、ヨシエビ属. *海洋と生物* 16, 368-371; 17, 452-455; 18, 46-48.
- YU, H. P. and T. Y. CHAN (1986): The illustrated Penaeoid prawns of Taiwan. Southern Materials Center, Inc. Republic of China. xiv+183pp.